

まち・ひと・しごと創生
椎葉村人口ビジョン



宮崎県椎葉村

平成27年10月

目 次

I 人口の現状分析

- 1 椎葉村の人口問題に関する基本的認識・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計
 - (2) 年齢階級別人口の比較
 - (3) 地区別総人口および減少率の推移
 - (4) 地区別年齢階級別人口の推移
 - (5) 人口減少の推移とその要因
 - (6) 自然動態の推移
 - (7) 社会動態の推移
- 2 将来人口の推移と分析・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 3 人口変化が将来に与える影響・・・・・・・・・・・・ 20

II 将来の人口展望

- 1 今後の基本的視点と目指すべき将来の方向性・・ 21
- 2 目標とする人口ビジョン・・・・・・・・・・・・ 22

I 人口の現状分析

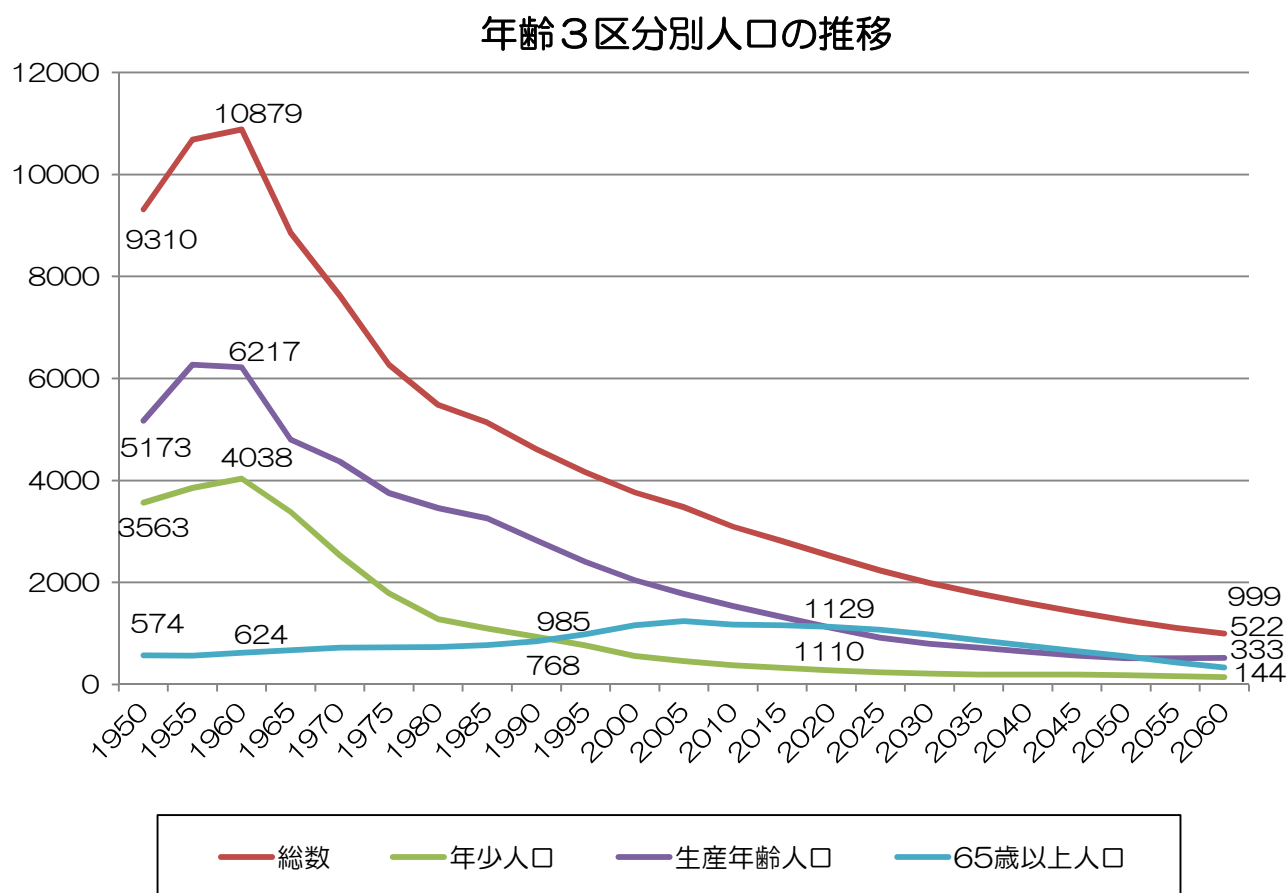
1 椎葉村の人口問題に関する基本的認識

(1) 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

椎葉村人口は平成 27 年 4 月現在 2,997 人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）が平成 25 年 3 月に公表した将来人口推計では、現状の人口減少は止まらず平成 42 年（2030 年）に 1991 人、平成 72 年（2060 年）に 999 人に減少すると推計されています。

また、65 歳以上人口が平成 7 年（1995 年）に年少人口を上回り、平成 32 年（2020 年）には生産年齢人口を上回り高齢化が更に進む予測となっていますが、高齢者人口は 2005 年の 1,243 人をピークとなり、後期高齢者人口は 2015 年がピークで減少していく予想となっています。



[国立社会保障・人口問題研究所]

年齢3区分別人口推計

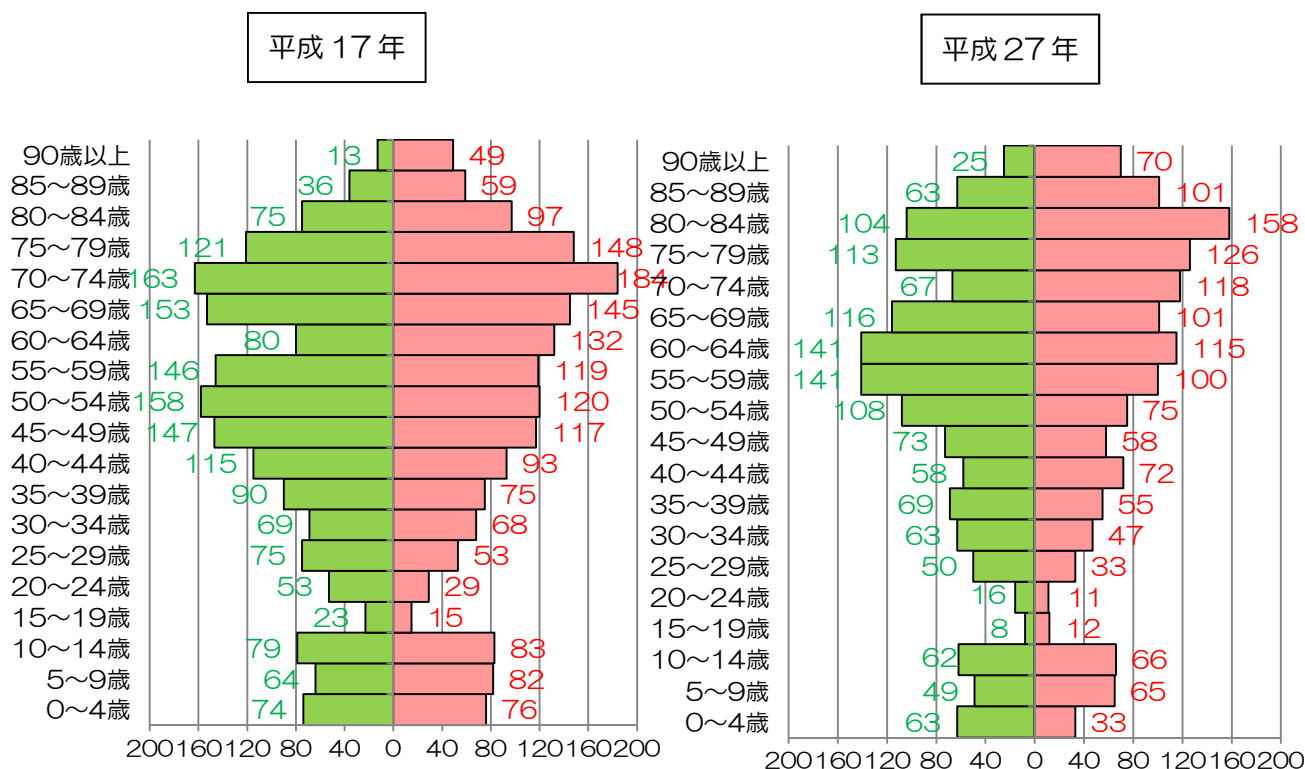
単位：人

年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
年少人口	377	325	276	241	214	198	194	194	186	165	144
生産年齢人口	1541	1325	1110	919	797	720	643	567	517	514	522
老年人口	1174	1162	1129	1073	982	866	761	656	553	433	333

[国立社会保障・人口問題研究所]

(2) 年齢階級別人口の比較(平成 17 年と現在)

10 年前の平成 17 年時点に比べて、全体的には減少していますが、女性の 65 歳以上においては 101.9%の増となっています。逆に女性の 65 歳未満は 75%程度の減となっており、女性の方が男性に比べて高齢化寄りの構成となっています。



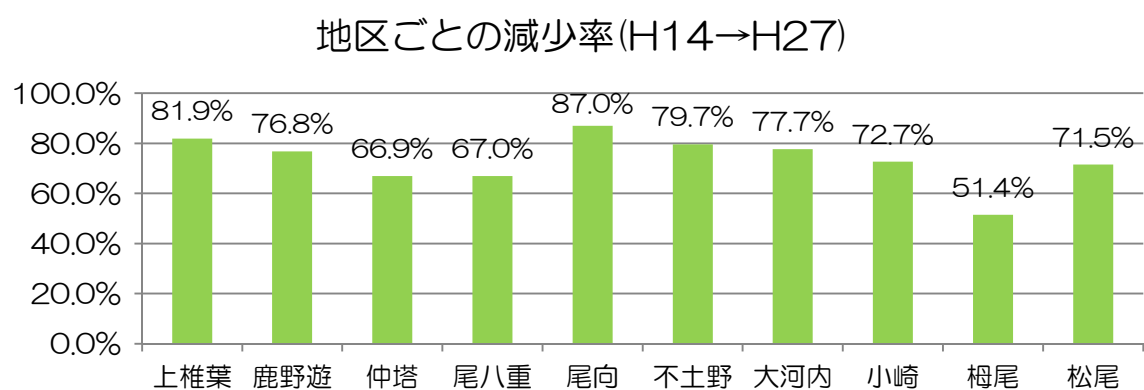
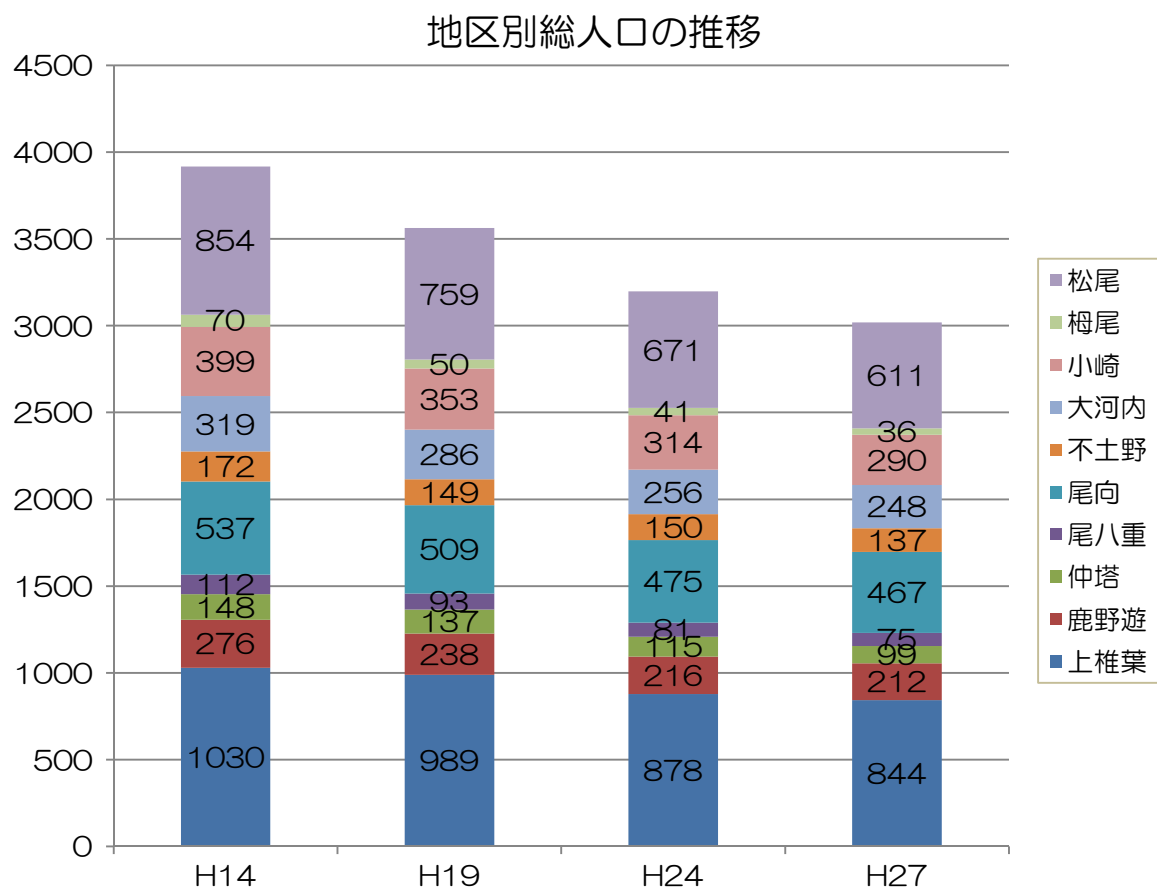
[椎葉村住民基本台帳より作成]

■ 3階層での増減率(平成 27 年 6 月時点での平成 17 年対比)

	14 歳以下	15-64 歳	65 歳以上	合計	男女計
男性	80.2%	76.0%	87.0%	80.1%	80.7%
女性	68.0%	70.4%	98.8%	81.2%	

(3) 地区別総人口および減少率の推移

各地域毎の人口は全ての地区において減少していますが、特に柵尾・仲塔・尾八重が平成14年に比べて70%以下と低くなっています。



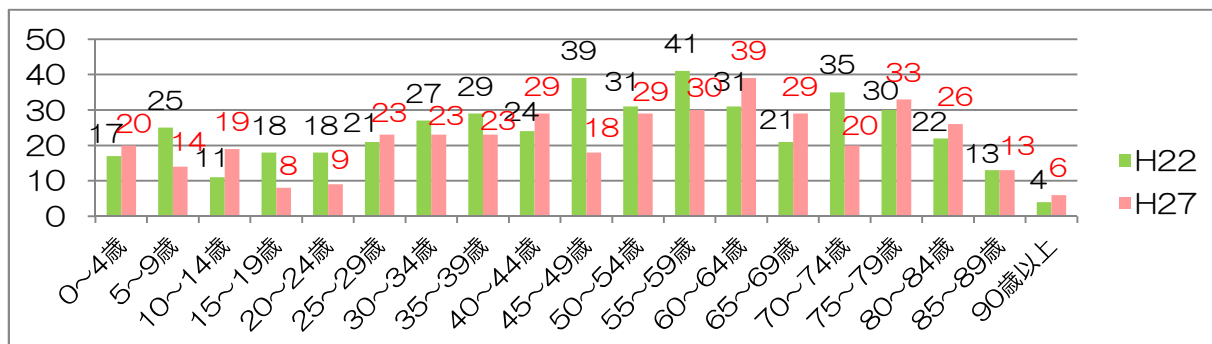
単位：％

	上椎葉	鹿野遊	仲 塔	尾八重	尾 向	不土野	大河内	小 崎	柵 尾	松 尾
H14-19	96.0	86.2	92.6	83.0	94.8	86.6	89.7	88.5	71.4	88.9
H20-24	88.8	90.8	83.9	87.1	93.3	100.7	89.5	89.0	82.0	88.4
H25-27	96.1	98.1	86.1	92.6	98.3	91.3	96.8	92.4	87.8	91.1

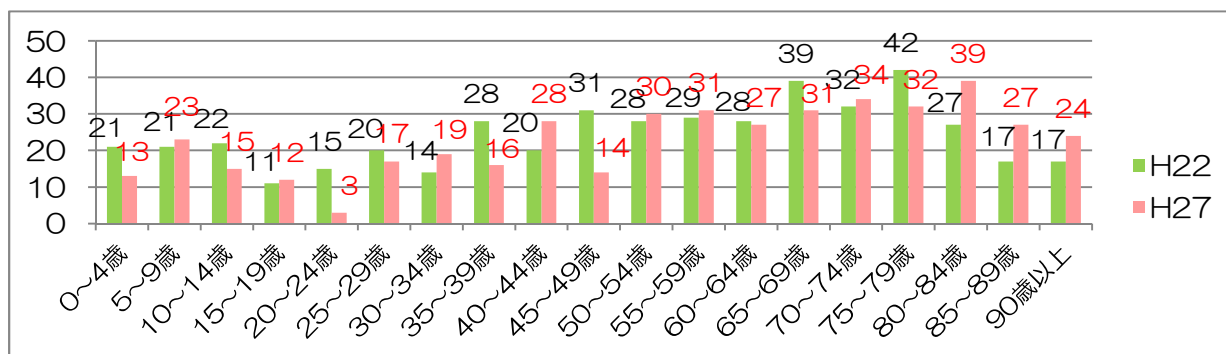
(4) 地区別年齢階級人口の推移 [椎葉村住民基本台帳より作成]

■上椎葉地区

【男性】

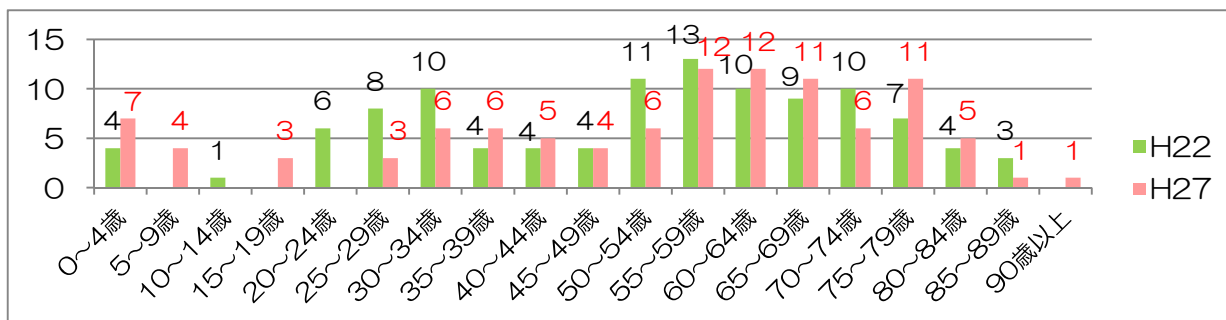


【女性】

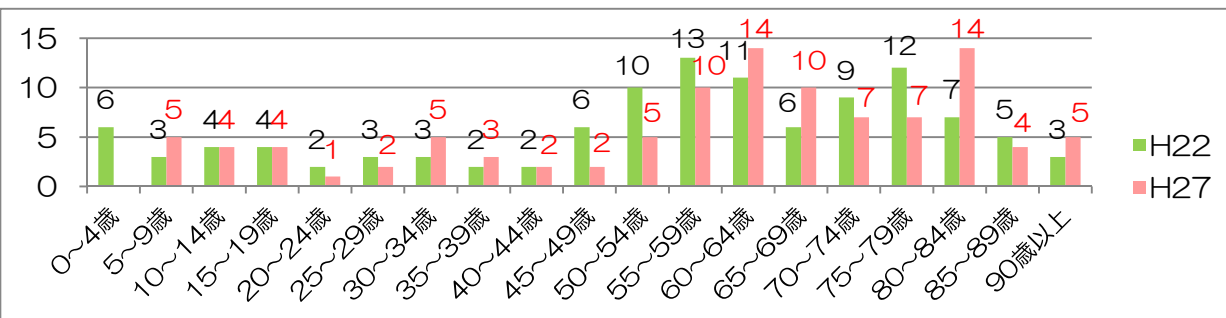


■鹿野遊地区

【男性】

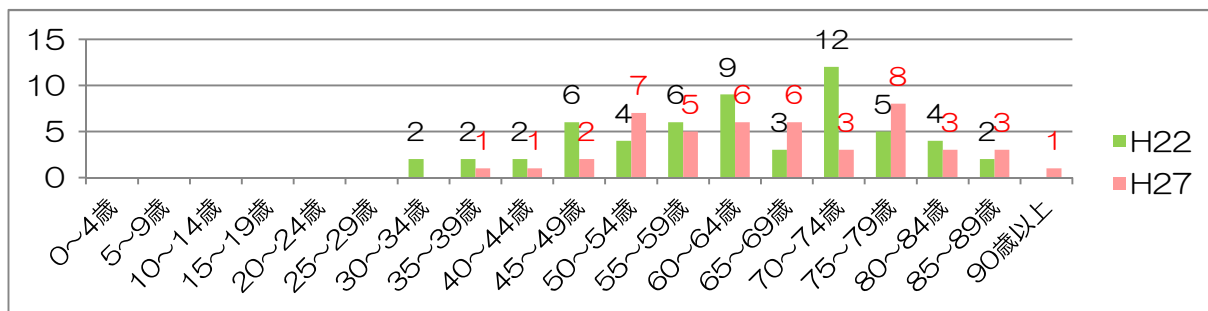


【女性】

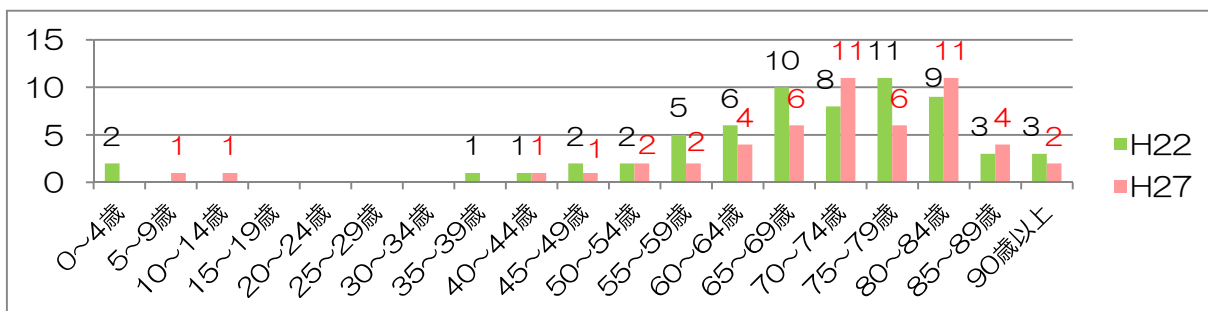


■ 仲塔地区

【男性】

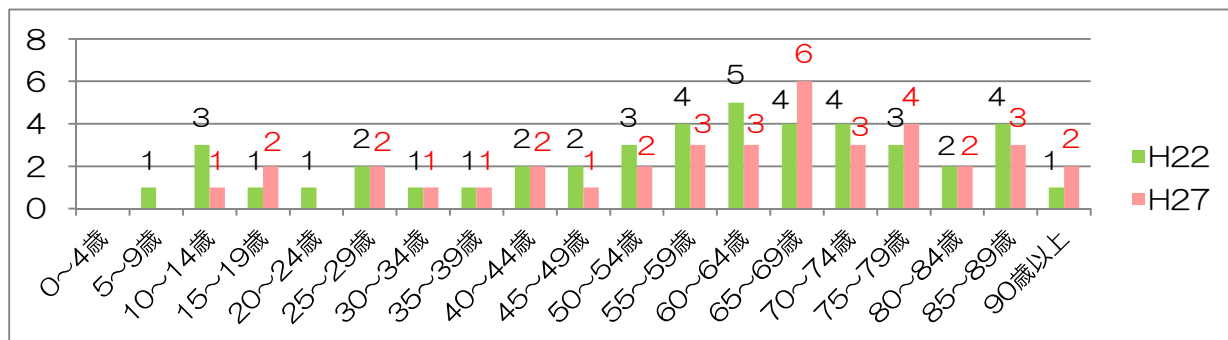


【女性】

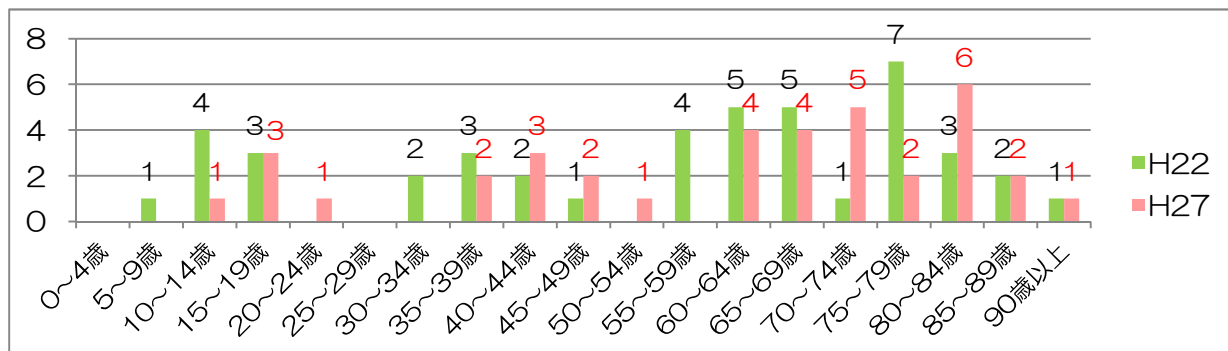


■ 尾八重地区

【男性】

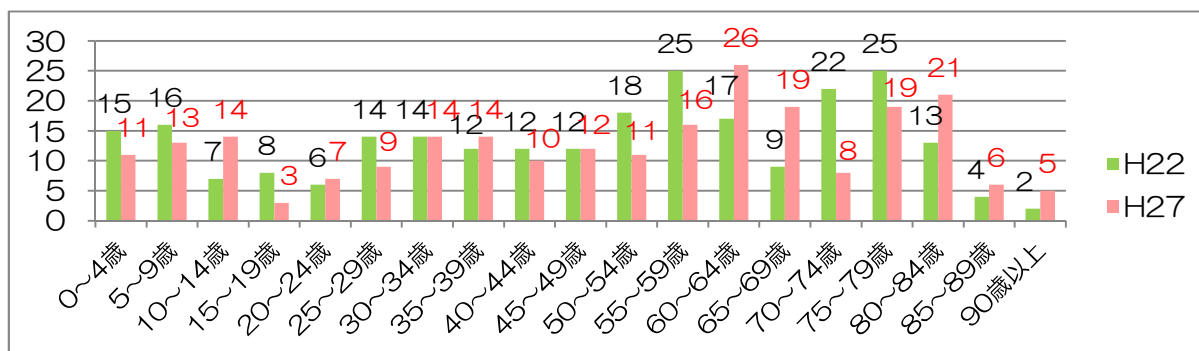


【女性】

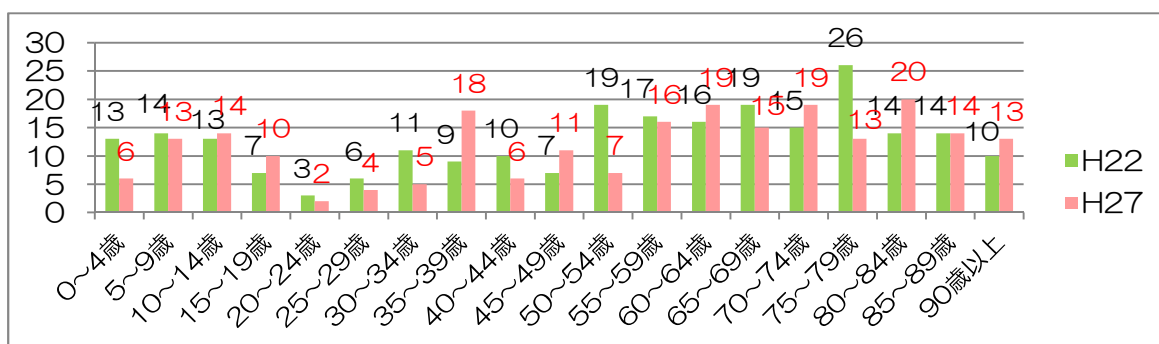


■尾向地区

【男性】

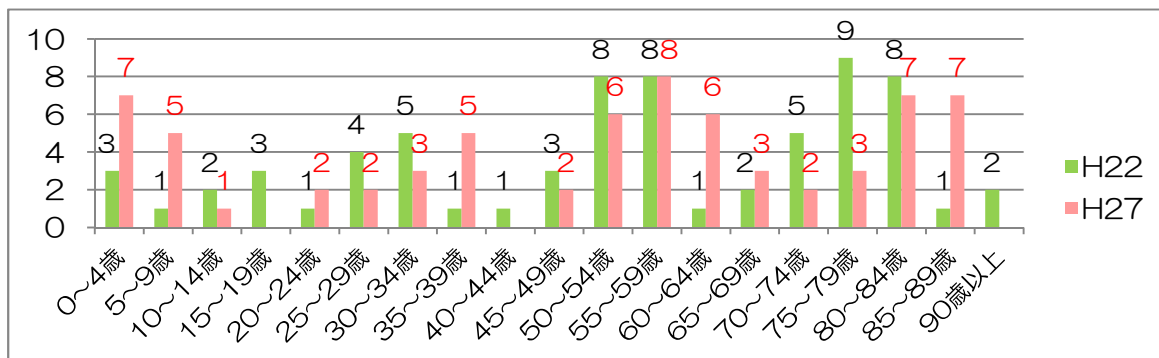


【女性】

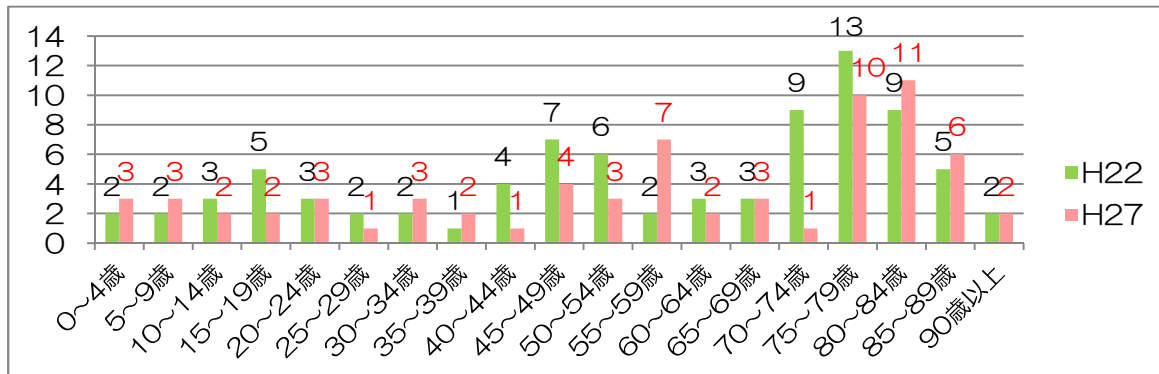


■不土野地区

【男性】

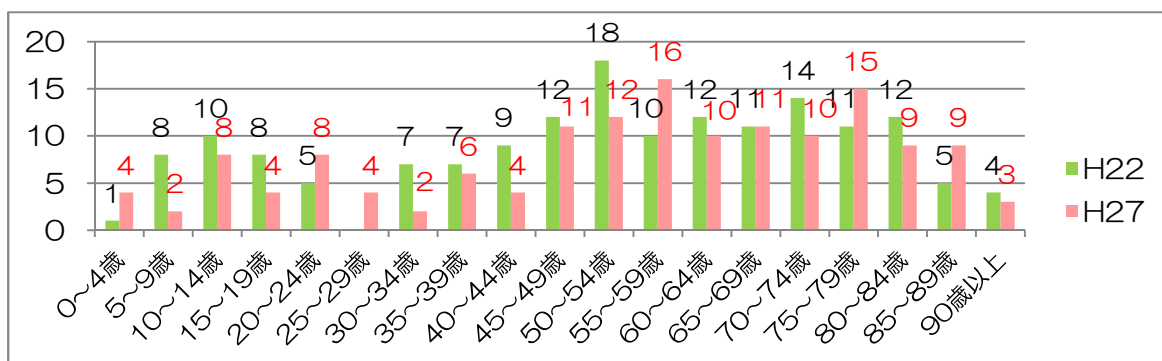


【女性】

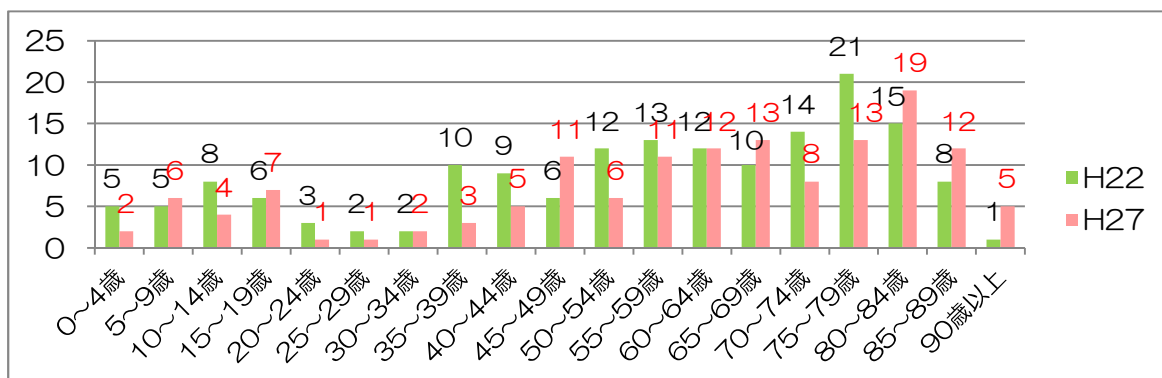


■小崎地区

【男性】

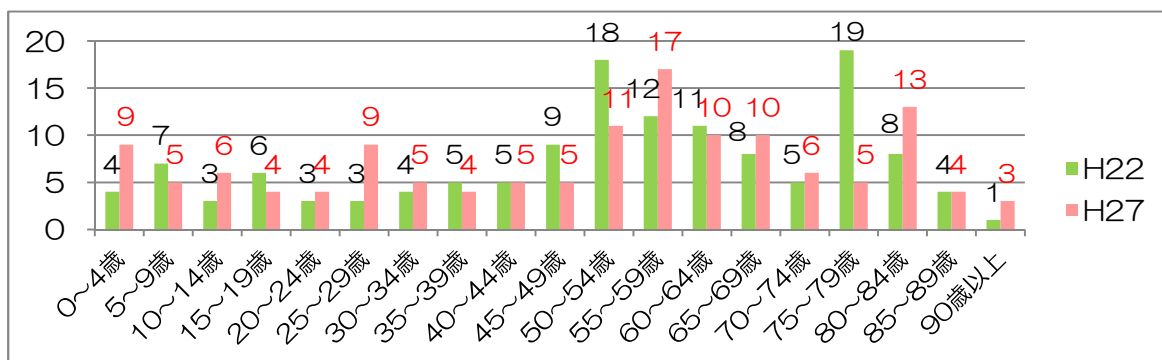


【女性】

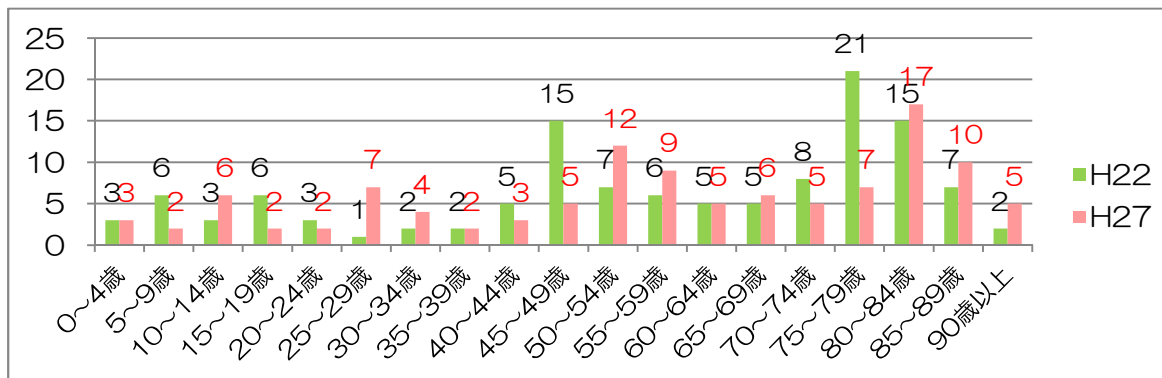


■大河内地区

【男性】

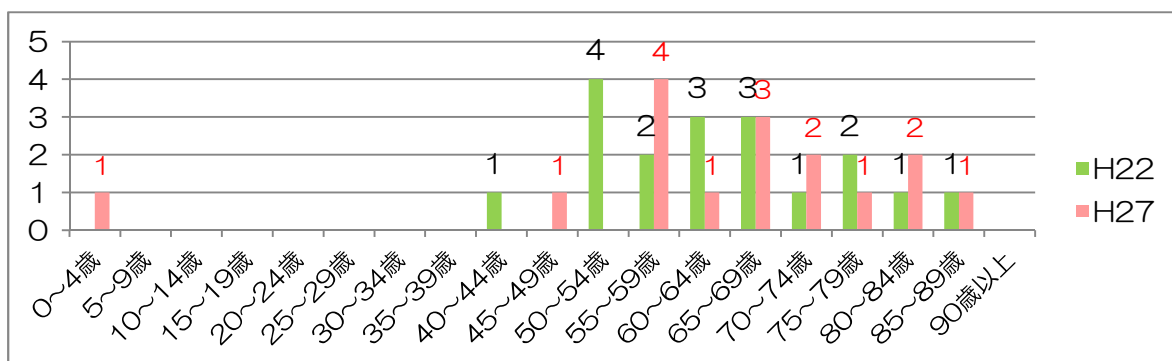


【女性】

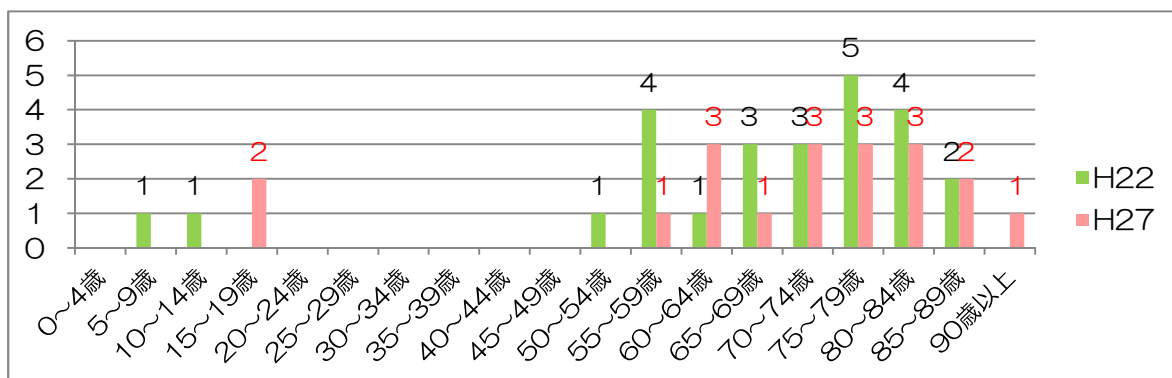


■ 梶尾地区

【男性】

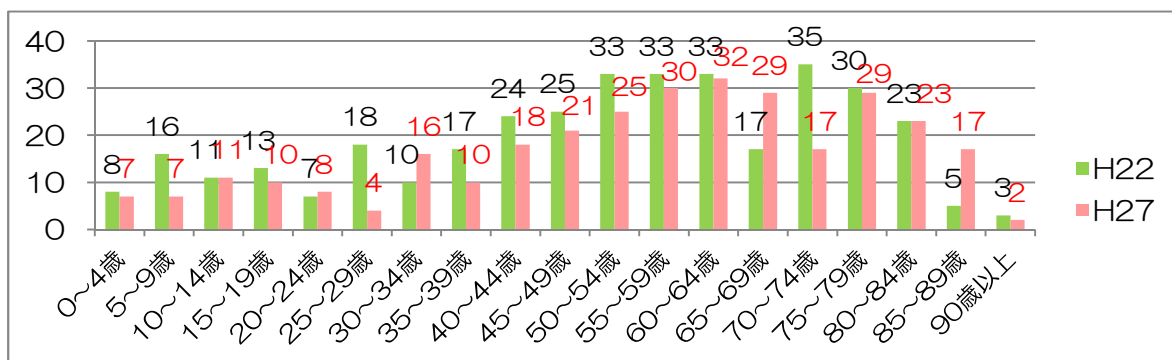


【女性】

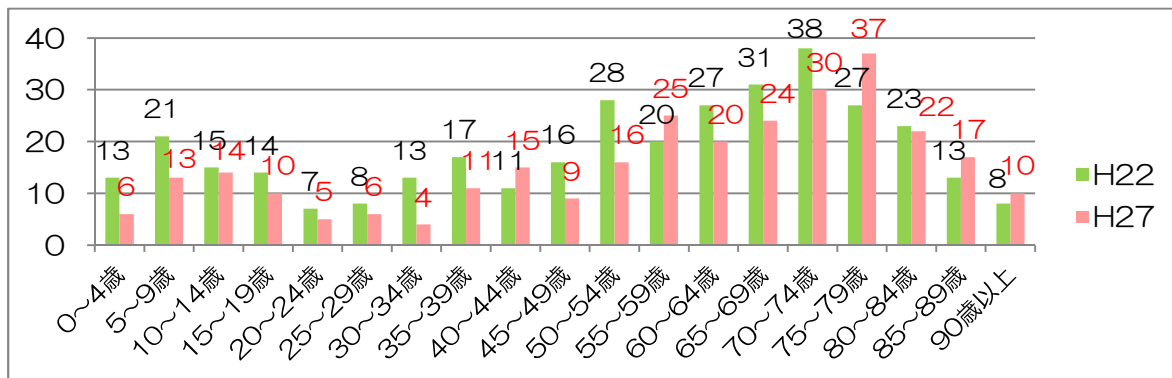


■ 松尾地区

【男性】



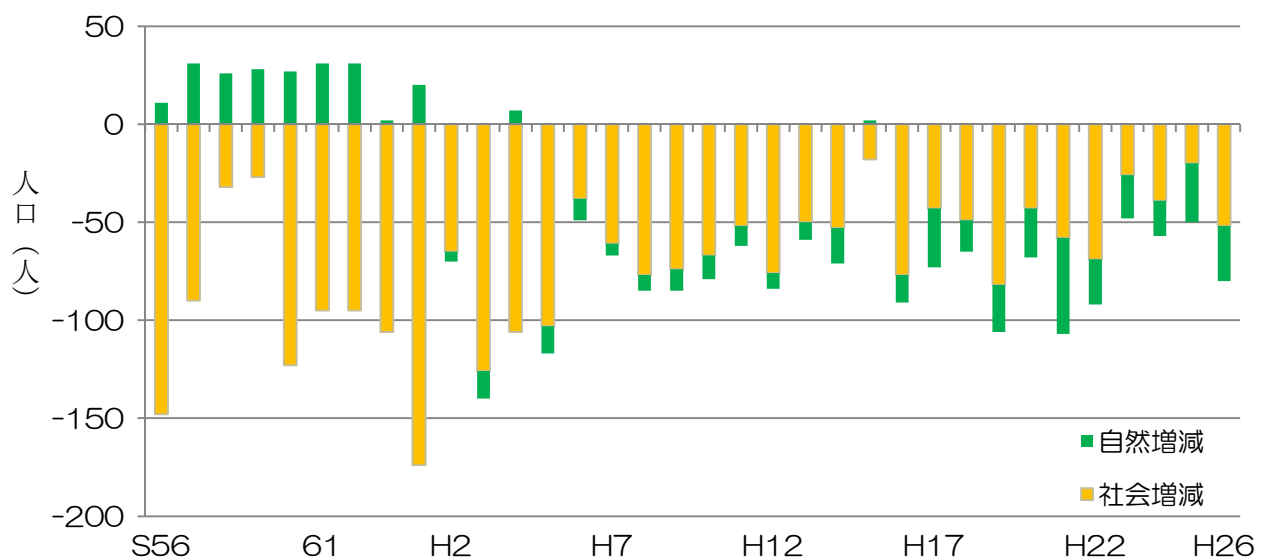
【女性】



(5) 椎葉村の人口減少の推移とその要因

本村の人口減少は、農林業の低迷による離村と中学卒業時の離村が主な要因であり、高校卒業後のＵターンも少なく、社会動態は減少傾向が続いています。

また、人口減少に伴う出生数の減少と高齢化による死亡数の増加により自然動態も減少傾向となり、自然減と社会減の同時進行により人口減少となっています。



[国勢調査結果]

■Ｕターンの状況（21～35 歳）

区分 年齢	Ｕターン人数		中学卒業時人数		Ｕターン率	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21～25	19	8	79	77	24.1%	10.4%
26～30	41	21	125	135	32.8%	21.0%
31～35	61	18	144	137	42.4%	13.1%
合計	121	47	348	349	34.7%	13.5%

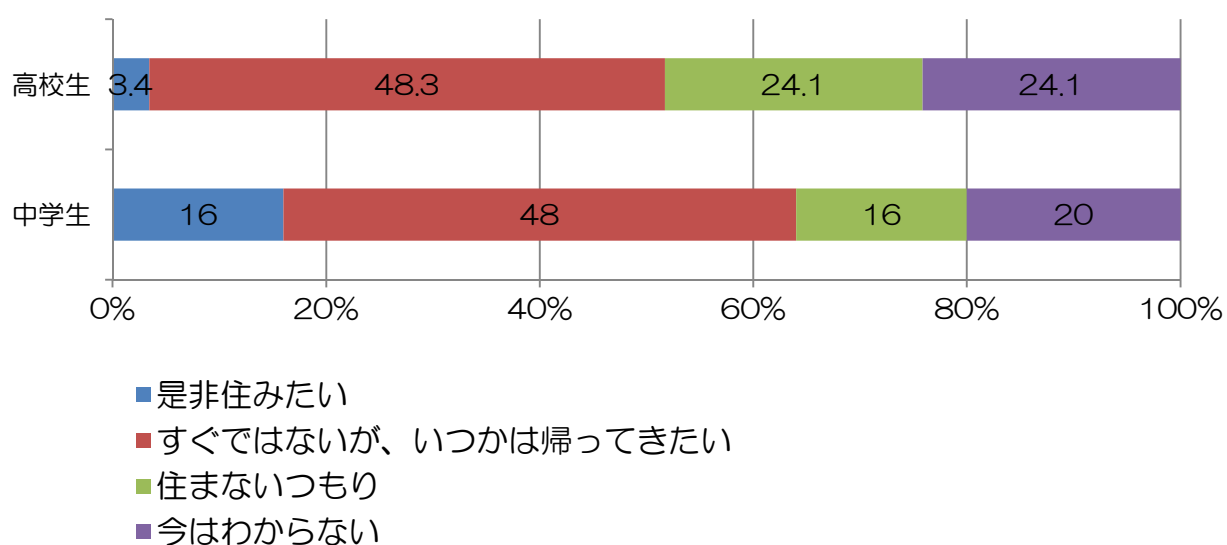
[独自調査結果]

■村内中学生および椎葉村出身者高校生の意識調査（平成 27 年 7 月実施）

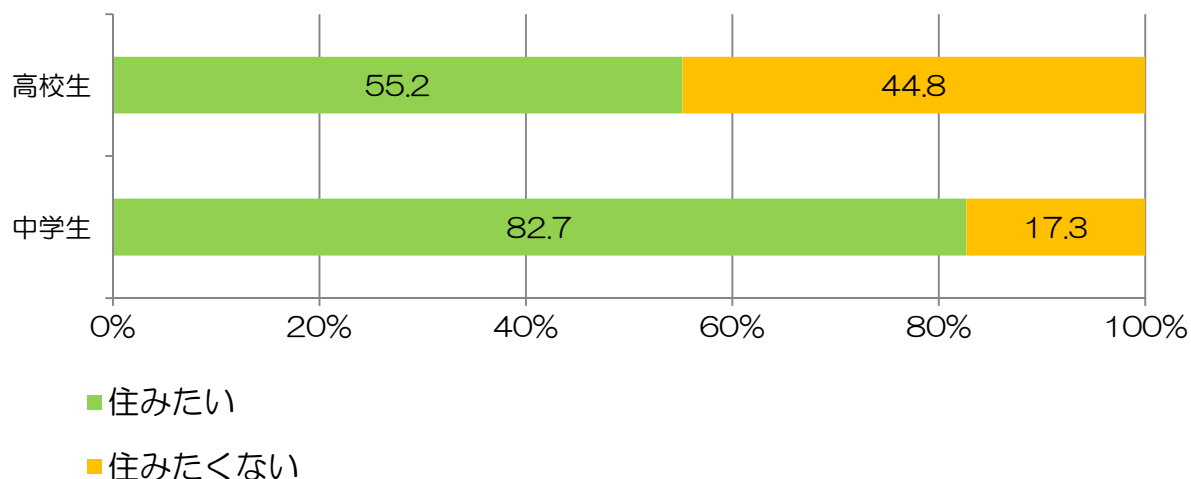
椎葉村へのＵターンへのアンケート調査では、「是非住みたい」と「すぐではないが、いつかは帰ってきたい」を併せて、中学生で６４％、高校生で５１．７％がＵターンの意向がある結果となりました。

また、希望する仕事が椎葉村で就業できるなら椎葉村に住みたいという意向が、中学生で８２．７％、高校生で５５．２％と、希望職種があるかどうかがＵターンにとって重要な要素である事が伺えます。

問：高校進学などにより椎葉村を離れ、その後に椎葉村に戻って住みたいと思いますか。



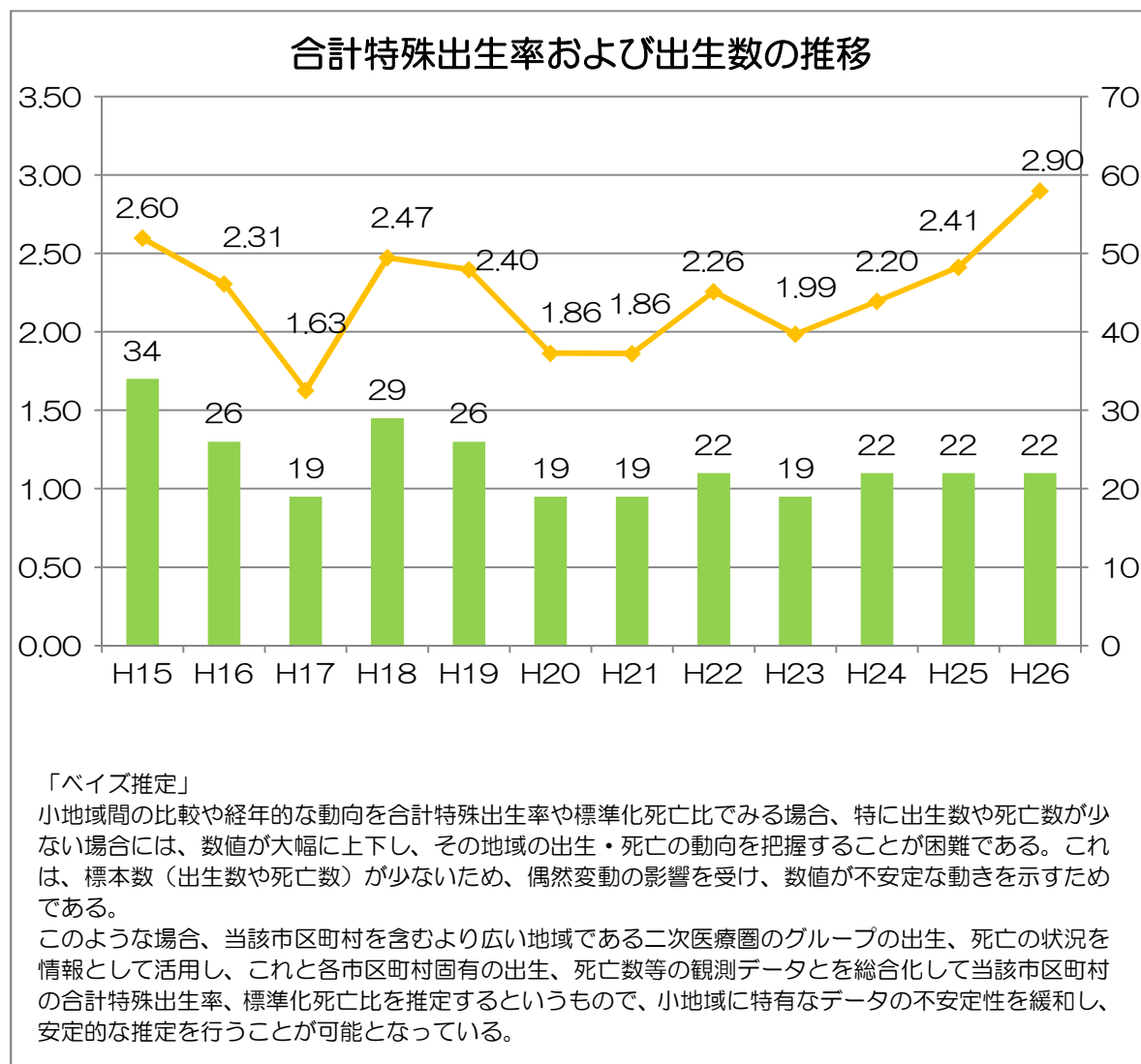
問：椎葉村で希望する仕事ができるなら、椎葉村に住みたいと思いますか



椎葉村の自然動態の推移

村の出生数は減少の一途を辿っており、少子化が進んでいます。しかし、平成20年以降の出生数は平均的になっており、合計特殊出生率は回復傾向にあります。一方、死亡数は人口減少にありながら高齢化により横ばいの状況となっています。

■ 椎葉村における合計特殊出生率

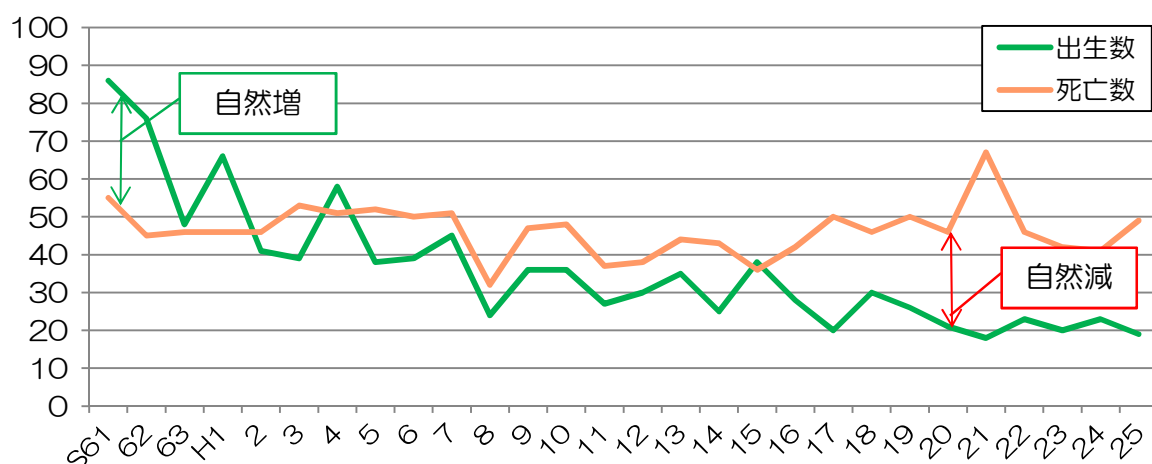


※国が公表している算定方法の「ベイズ推定」は二次医療圏のデータが必要となるため、椎葉村単独で算出する場合は、国の公表値と異なる数値となる。

（参考値：国の公表値と椎葉村単独算出の比較）

	H15－19	H20-24	H22-26
国の公表値	1.96	1.82	—
椎葉村単独での算出値	2.25	2.04	2.20

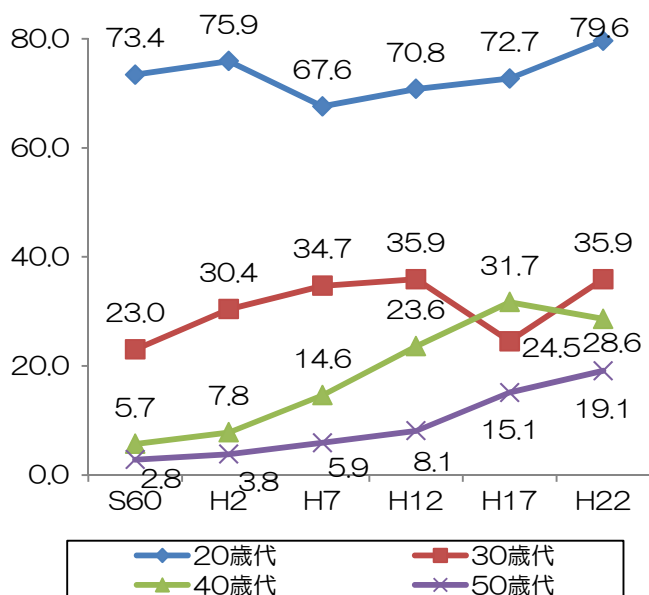
■出生数と死亡数の推移



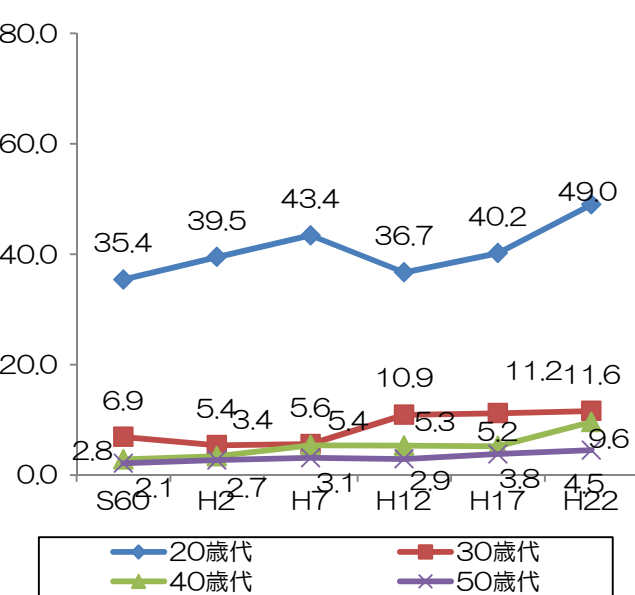
[椎葉村住民基本台帳より作成]

■未婚率の推移

未婚率については、女性に比べて男性が高く、平成22年においては20歳代で約8割、30・40歳代で3割前後と、昭和60年以降、未婚率の上昇が見られます。



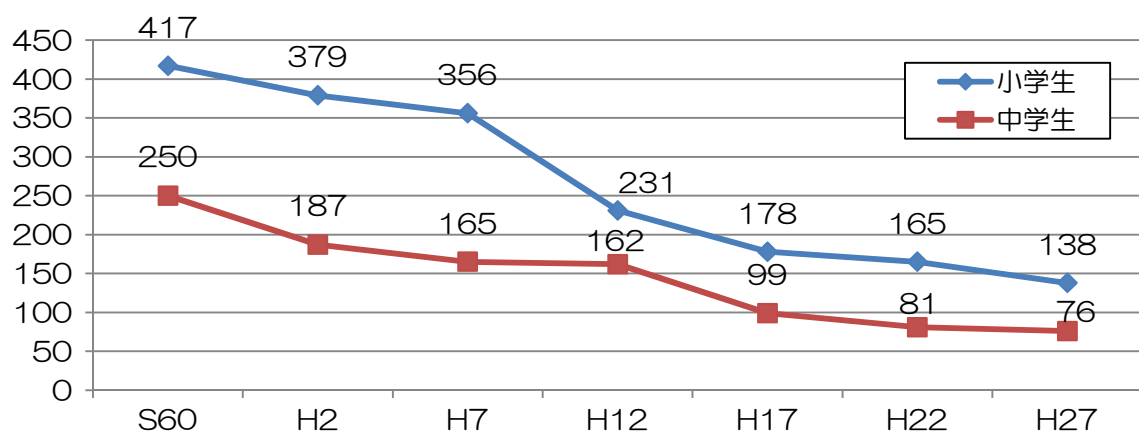
【男性】



【女性】

[国勢調査結果]

■児童生徒数の推移



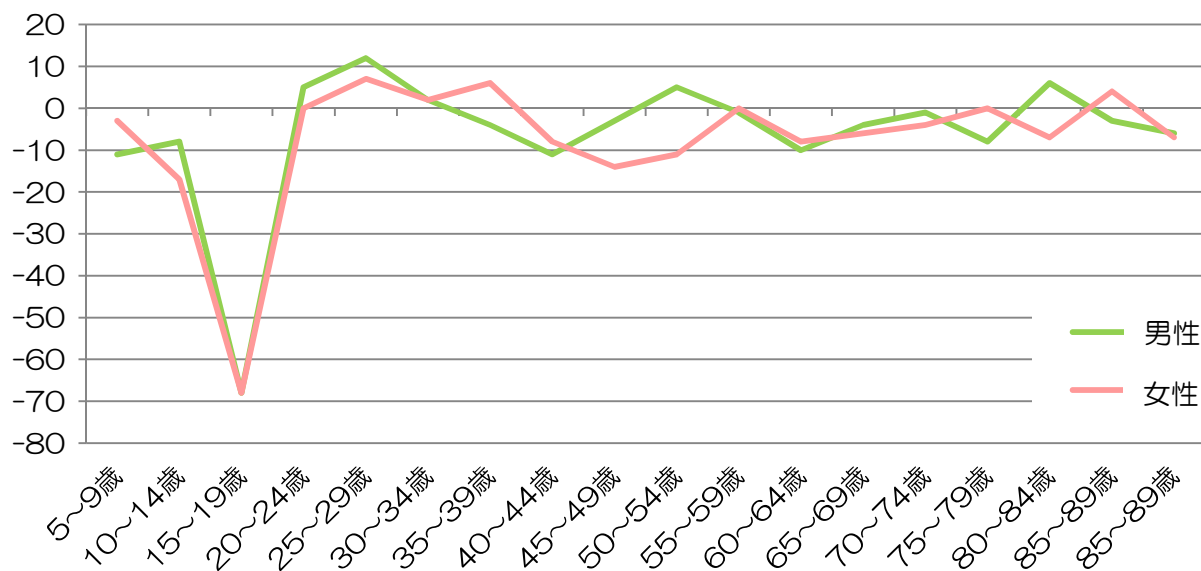
[国勢調査および独自調査結果]

(6) 椎葉村の社会動態の推移

本村に高校がない事から社会減については、15歳から19歳の世代の転出超過が大きな割合を占めています。

また、転出先は宮崎市と県外がほぼ同数で、日向市・延岡の順となっています。

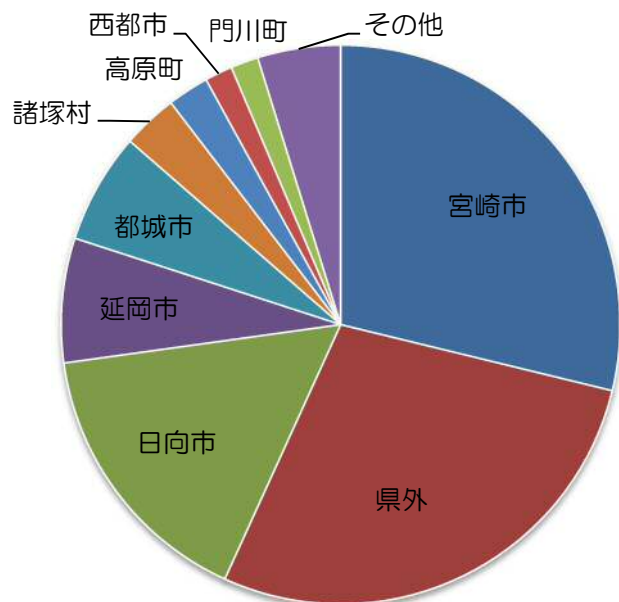
年齢別社会動態の状況(2005年-2010年)



[国勢調査結果]

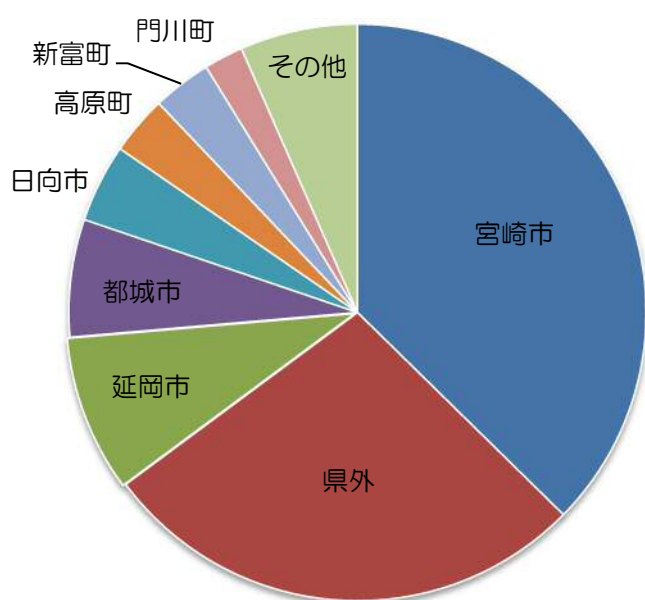
■地域別社会移動の状況（2013年10月～2014年9月）

【転出】



転出先	転出者数
宮崎市	36
県外	35
日向市	20
延岡市	9
都城市	8
諸塚村	4
高原町	3
西都市	2
門川町	2
日南市	1
高鍋町	1
木城町	1
小林市	1
美郷町	1
五ヶ瀬町	1

【転入】



転入元	転入者数
宮崎市	34
県外	25
延岡市	8
都城市	6
日向市	4
高原町	3
新富町	3
門川町	2
西都市	1
日南市	1
諸塚村	1
小林市	1
美郷町	1
高千穂町	1

[宮崎県提供資料による]

■椎葉村在住で村外への就業者数の推移（平成2年～平成22年）

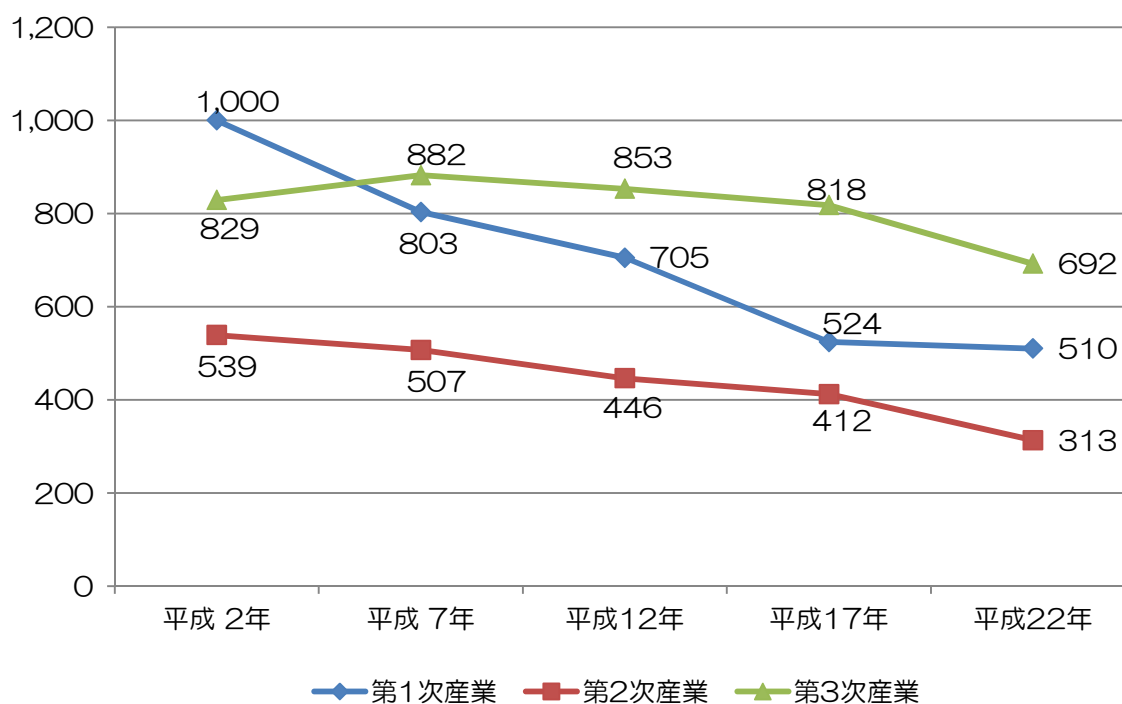
椎葉村在住で他市町村へ就業している人数は、道路網整備による他市町村へのアクセス改善などの理由から増加傾向にあり、今後も道路整備が進めば、他市町村への通勤等も更に進み、就業範囲の拡大が見込まれます。

平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
37人	37人	41人	48人	49人

[国勢調査結果]

■産業別就業者の推移

平成17年までは農林業の低迷により第1次産業の減少が著しかったが、平成22年にかけては第2次産業が平成17年比で76%、第3次産業が85.6%と、第1次産業より減少率が大きくなっています。



[国勢調査結果]

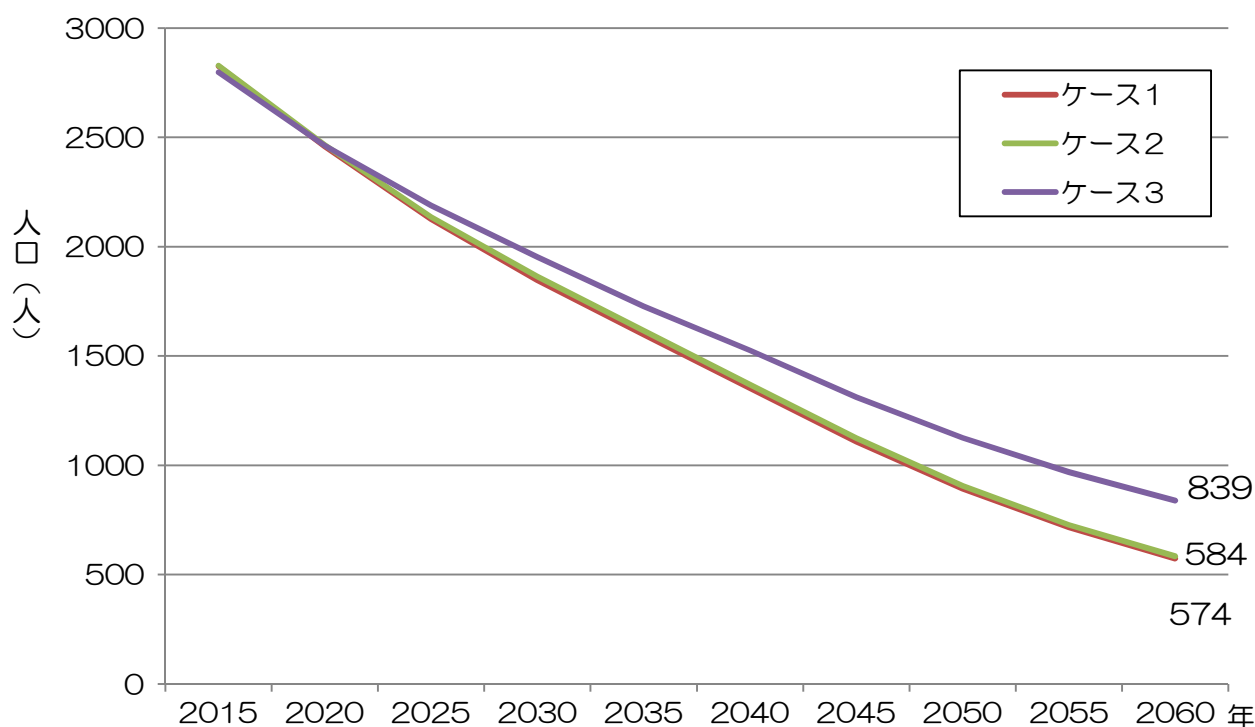
2 将来人口の推計と分析

椎葉村における人口推計を3通り試算し平成 72 年（2060 年）まで推計を行いました。推計において、年齢別人口については 2015 年 3 月時点の住民基本台帳の人数、20 歳から 39 歳までの人口移動率については、2015 年時点の現住の人数から算出した数値を使用しました。

それぞれのケースにおける推計に関する考え方は以下のとおりです。

- ① ケース 1：全国の総移動数が、平成 22 年から平成 27 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計（日本創成会議推計準拠）
- ② ケース 2：自然動態について平成 42 年(2030 年)までに合計特殊出生率を段階的に 2.07 まで上昇。
- ③ ケース 3：自然動態はケース 2 に準じ、社会動態についてはケース 2 の移動率をベースとし、29 歳以下の若年層の流出超過を平成 42 年（2030 年）までに段階的に 30%抑制

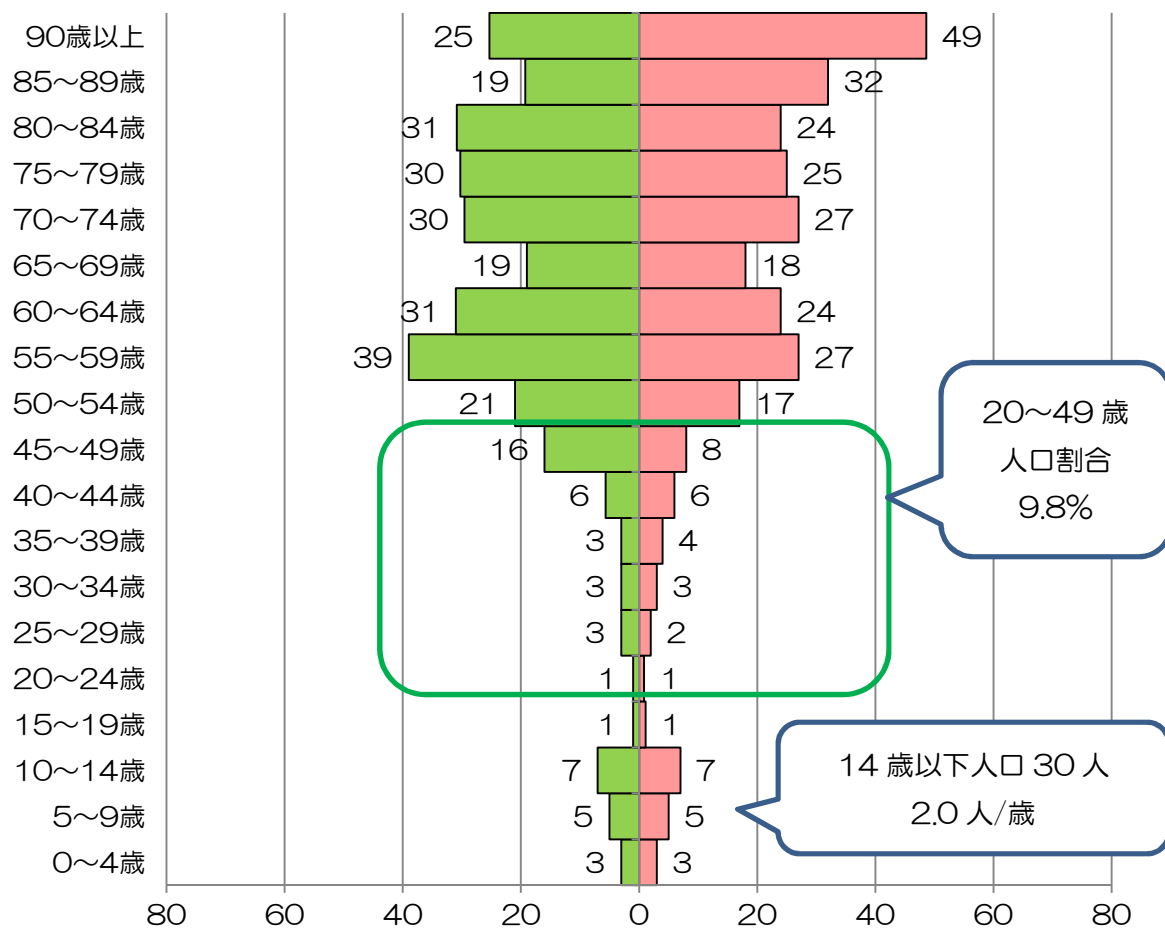
■各ケースにおける人口推移



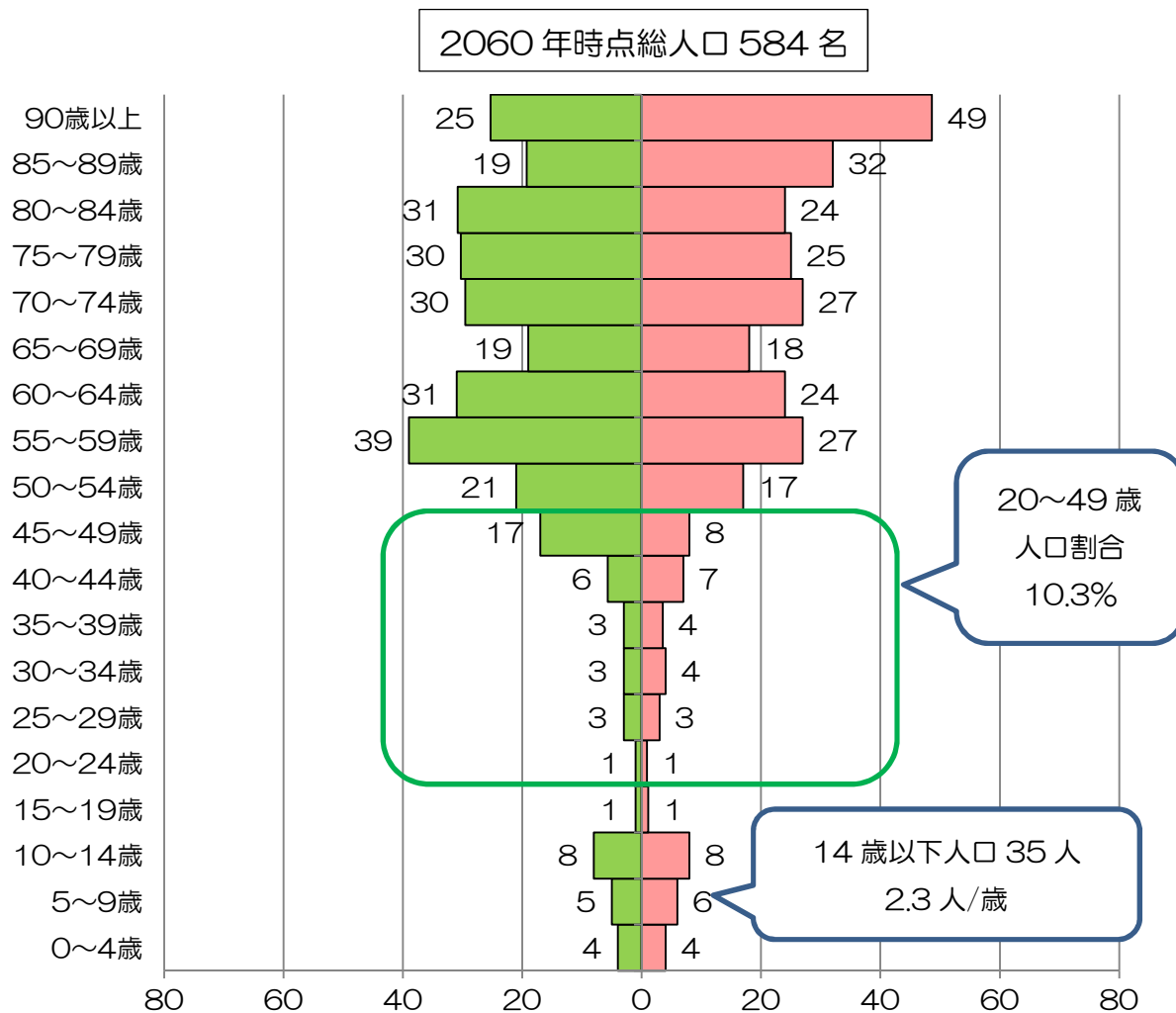
■各ケースにおける人口ピラミッド

ケース1

2060年時点総人口 574 名

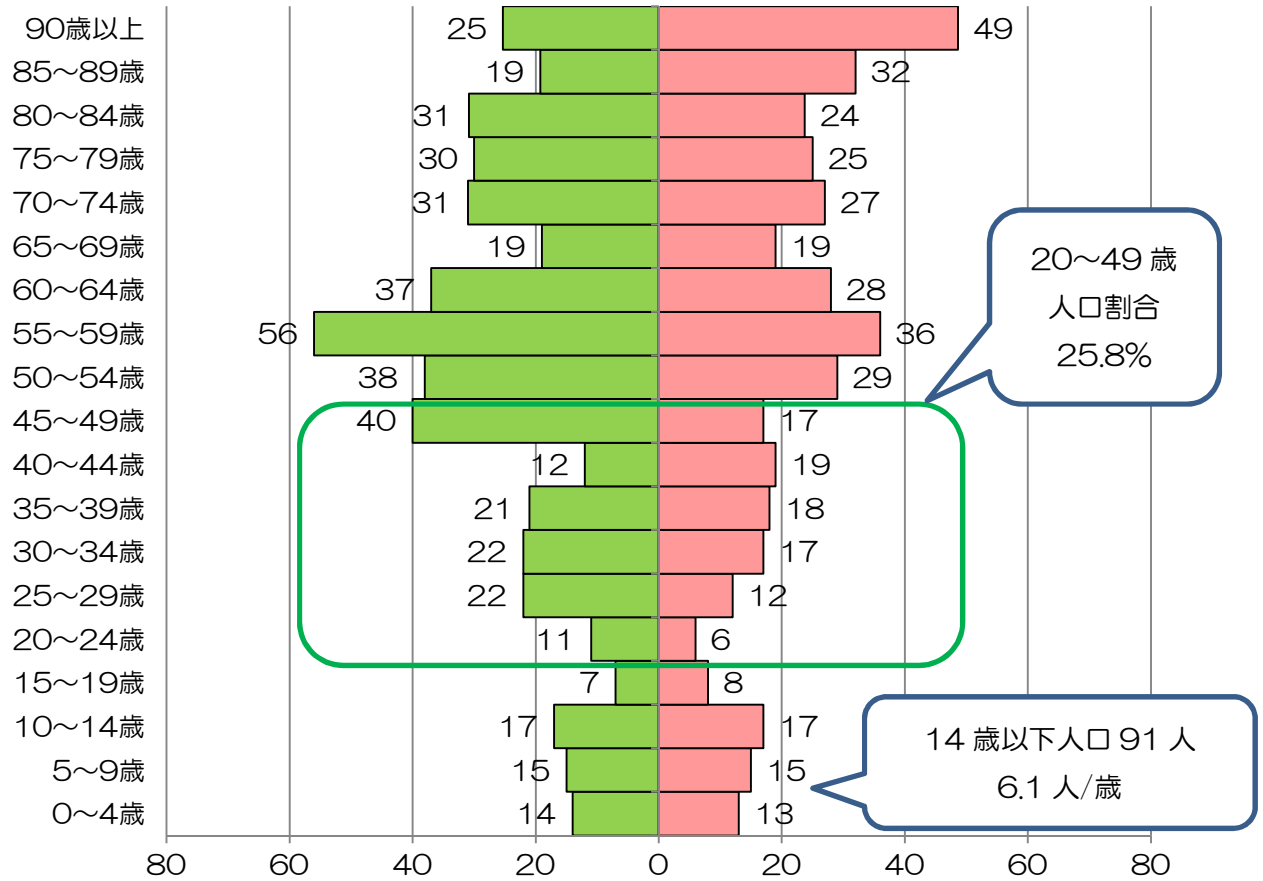


ケース2



ケース3

2060年時点総人口 839 名



3 人口変化が将来に与える影響

人口減少により生じる影響については、以下の事が想定されます。

1. 児童数の減少による影響

児童数が減ることにより、学校の統廃合が迫られたり、部活などのスポーツや様々な学習面、また多様な人材育成においても影響が生じることが予想されます。学習環境面が衰退すると、子育て世代の流出も懸念され、人口減少に拍車がかかる事も予想されます。

2. 生産年齢の減少による影響

生産年齢人口が減ることにより、農林産業などをはじめとして、産業全般において就業者が減り、経済活動が縮小する事となります。

これにより、税収減少など財政面への影響も生じ、公共施設や社会資本の維持・更新や新たなインフラ整備等の停滞が懸念されます。

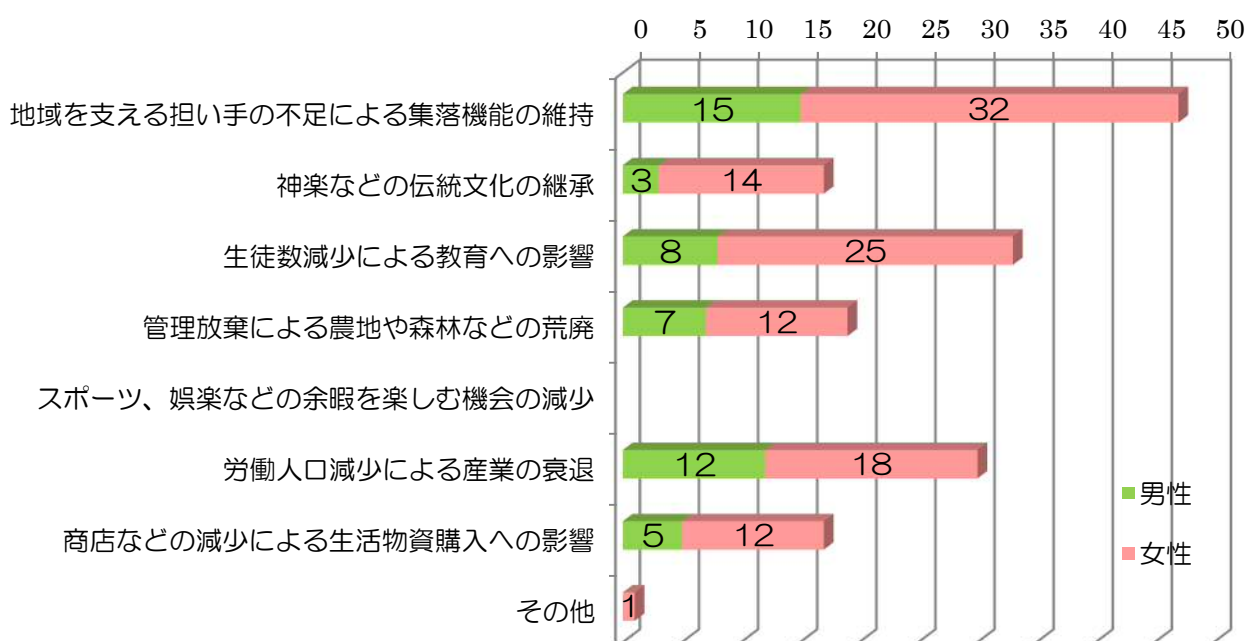
また、農地や山林などの財産管理も困難となり、村土の荒廃が懸念されます。

さらに、集落の様々な維持活動や自治組織としての運営も困難となるといった事や、労働人口減少による福祉サービスへの影響、小売店の減少による買い物弱者の増加なども懸念されます。

子育て世代におけるアンケートでも「担い手不足による集落機能」が一番危惧されている事であり、集落の維持に対して不安が大きい事が伺えます。

■人口減少が進行していった場合に影響が大きいと思われること

(子育て世代へのアンケート結果による)



Ⅱ 将来の人口展望

1 今後の基本的視点と目指すべき将来の方向性

(1) 椎葉村の人口減少対策の方向性

椎葉村は昭和 35(1960)年の 10,879 人をピークに減少の一途を辿っており、高齢者が多い人口バランスから、今後も人口減少は免れない状況にあります。今後も、現状の人口推移が続いた場合、2060 年には生産年齢世代 1 人あたり 1.49 人の高齢者を支える状況となります。これは現在の 1.65 倍であり、大きな負担増となります。

また、年少人口については、出生数が平成 20 年に 19 人まで落ち込みましたが、その後は 20 人前後を維持し続けています。椎葉村の様に人口規模が小さい自治体では、出生数がわずかでも減少することが将来における総人口に大きな影響を及ぼすことから、年少人口をいかに減少させないかが、椎葉村を永続的に維持できるか大きなポイントとなります。

こうしたことから、椎葉村の人口減少対策においては、若年層の人口増対策を講じることが重要であり、それにより自然増への相乗効果を生み出し、好循環をつくりだす取り組みが重要であると考えられます。

特に、現在、男女比率が男性よりも偏っている女性の若年層世代の社会増対策が高い効果を発揮すると思われます。

椎葉村が将来にわたって「美しい村」を守り続けていくために

■社会減抑制・子ども世代の増加・出生率向上・地域経済の需要創出・若者世代増

- 地域の資源を活かした産業の活性化および雇用の場の創出
- 移住・定住（U・Iターン）の促進、交流人口の増加
- 子育て環境整備、結婚希望者のサポート
- 人材育成支援、時代に即した集落体制の構築

2 目標とする人口ビジョン

現在の年齢構造から今後の人口減少は避けられない状況となっていますが、将来において椎葉村が「世界に誇れる日本の美しい村」を目指す希望が持てるビジョンであるために、以下の項目を基準とし、人口ビジョンを設定します。

○椎葉村における人口ビジョン目標設定

- 2060 年時点でも 0～4 歳人口が 100 人前後を維持
- 2060 年時点の総人口が現在の半数程度を確保
- 合計特殊出生率が 2040 年までに 2.37(平成 5～9 年の数値)まで上昇し、その後は維持

この基準に基づき、シミュレーションを行った結果の詳細なデータは次項のとおりです。表から判るように、25 歳以上の人口は出生数を上回る必要があるため、若年層の移住や交流人口の増加対策に早急に注力必要があります。

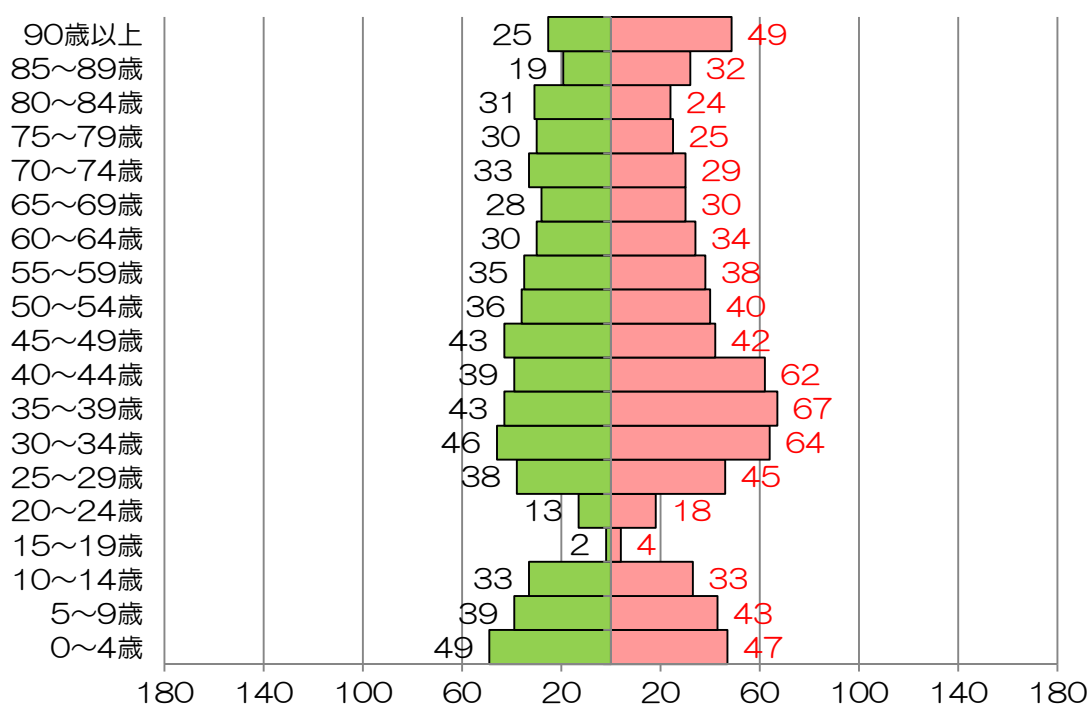
■椎葉村人口ビジョン（参考資料）

年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	1.910	2.000	2.090	2.190	2.280	2.370	2.370	2.370	2.370	2.370
総数	2,803	2,459	2,170	1,951	1,791	1,660	1,546	1,446	1,377	1,338
0～4 歳	96	71	72	79	87	91	93	93	94	96
5～9 歳	114	86	64	64	70	76	80	81	82	82
10～14 歳	128	98	74	53	53	56	62	65	66	66
15～19 歳	19	20	16	11	8	5	5	5	6	6
20～24 歳	27	30 (10)	31 (10)	26 (10)	33 (20)	34 (25)	30 (25)	30 (25)	31 (25)	31 (25)
25～29 歳	83	70 (20)	77 (20)	79 (20)	75 (25)	86 (25)	89 (25)	82 (25)	83 (25)	83 (25)
30～34 歳	110	101 (10)	88 (10)	98 (10)	100 (10)	101 (15)	111 (15)	117 (15)	109 (15)	110 (15)
35～39 歳	123	110	109	96	98	100	102	110	117	110
40～44 歳	130	111	97	96	84	85	87	88	95	101
45～49 歳	130	119	102	89	86	74	75	77	77	85
50～54 歳	184	128	116	100	87	86	74	74	76	76
55～59 歳	241	178	124	113	97	84	84	72	71	73
60～64 歳	256	218	160	111	101	86	75	74	64	64
65～69 歳	217	235	199	146	101	92	77	67	67	58
70～74 歳	186	201	217	184	135	93	85	71	62	62
75～79 歳	239	168	180	193	164	120	83	76	63	55
80～84 歳	261	201	145	157	166	141	103	71	65	55
85～89 歳	164	194	150	114	122	127	107	79	54	51
90 歳以上	95	120	149	142	124	123	124	114	95	74
（再掲）0～14 歳	338	255	210	196	210	223	235	239	242	244
（再掲）15～64	1,303	1,085	920	819	769	741	732	729	729	739
（再掲）65 歳以上	1,162	1,119	1,040	936	812	696	579	478	406	355

※() 書きは現在の人口増減率で算定される推定人口に加えて必要な人口数

■2060 年時点における人口ビジョンと現時点の人口ピラミッド比較

(1) 人口ビジョンでの 2060 年時点人口ピラミッド



(2) 2015 年時点人口ピラミッド

